

## 「どうすれば救われるのか」(ナアマンの癒し)

列王記第二 5章 1～12節

## はじめに

「人は、どうすれば救われるのか」。今朝は、このテーマを旧約聖書に出てくるナアマンという人を例に取り上げて考えてみましょう。

時は今か 2860 年ほど前です。聖書の舞台であるユダヤの国は、北のイスラエルと南のユダに分裂していました。南のユダは、先祖からの真の神に従っていましたが、北のイスラエルの王たちは、先祖代々信じて神を捨て、異国の神を持ち込み、その神を礼拝することを民に求めました。しかし、神はエリヤ、エリシャなどの預言者を北のイスラエルに送り、真の神を伝え、民を偶像礼拝から守ろうとしました。

## 1. ナアマンの悩み

その預言者エリシャの時代に、隣国アラムに、王に仕えるナアマンという人がいました。彼は将軍で、王に重んじられ、人々から尊敬されるアラムの英雄でした。しかし、この彼に大きな悩みがありました。それは「重い皮膚病」にかかっていたのです。地位も名誉もお金もある、何不自由のない人でしたが、いま病に苦しみ、悩んでいました。

**適用：**人には、だれでも悩みがあります。どんなに地位や名誉やお金のある人でも悩みがあります。そして、どうしたら、そこから救われるかを願うものです。

## 2. ナアマンの救い

(1) そこにいた若いイスラエルの女奴隷の勧め (2-3)。

ナアマンの家には、彼の妻に仕える若い女奴隷がいました。彼女は、イスラエルから略奪されて、連れてこられたのでした。彼女は信仰の篤い、心の優しい女性でした。彼女は、ご主人であるナアマンが苦しむのを見かねて、奥さんに言いました。「もし、ご主人様が(彼女の故国)サマリヤにいる預言者の所に行かれたら、きっと、あの方がご主人様の病を治してくださるでしょうに」。

**適用：**神様はナアマンを救うために、一人の少女を用意しておられました。

かつてアブラハムの孫、ヤコブとその家族が食料難で苦しみ、エジプトに助けを求めたことがありました。その時、彼らを助けたのが、かつて兄弟たちにエジプトに売り飛ばされたヨセフでした。彼はその時、エジプトで王に次ぐ権力者になっていました。自分たちが助けを求めた相手が、かつて自分たちが売り飛ばしたヨセフだと知って、兄弟たちは震

えあがりしました。その時、ヨセフはこう言いました。「今、私をここに売ったことで心を痛めたり、怒ったりしてはなりません。神はいのちを救うために、あなたがたより先に、私を遣わしてくださったのです」（創世記 45:5）。

また、ユダの国がペルシャに幽閉されていた時代に、ユダヤ人を全滅させるという陰謀がありました。その時、王妃になっていたユダヤ人のエステルに、養父モルデカイは言いました。「もし、あなたがこのような時に沈黙を守るなら、別の所から、助けと救いがユダヤ人のために起ころう。しかしあなたも、あなたの父の家も滅びよう。あなたがこの王国に来たのは、もし かすると、この時のためであるかもしれない」（エステル 4:14）。

結果、エステルは立ち上がり、ユダヤ人は絶滅を免れました。

神様は、ナアマンを救うために、略奪という形でしたが、イスラエルにいた信仰深い少女をナアマンの家に遣わしておいでになったのです。

神様は、私たちを助けるために、数々の配慮をしてくださいます。これを神の摂理 (Providense) と言います。あなたの家族の救いのために、まずあなたを救って、その家に遣わしておいでになるではありませんか。

## (2) エリシャとの出会い (4-10)。

ナアマンは自分の仕える王に相談すると、王はイスラエルの王に手紙を書いてくれました。ナアマンは、銀 340 キロ、金 60 キロ、晴れ着 10 着というたいへんな贈り物を持って出かけました。イスラエル王は、アラムの王が自分にナアマンの病を治せと言ってきたと誤解して悩んでいると、預言者エリシャは王に「ナアマンを私の所によこしなさい。彼はイスラエルに預言者がいることをしるでしょう」と言いました。

こうしてナアマンは、たくさんの贈り物を携えて、エリシャの家の入り口に立ちました。エリシャは使いをやって、「ヨルダン川へ行って七たびあなたの身を洗いなさい。そうすればあなたのからだ元どおりになってきよくなります」と言いました (8-10)。

すると、ナアマンは言いました。「何ということだ。私は彼がきつと出てきて、立ち、彼の神、主の名を呼んで、この患部の上で彼の手を動かし、このツアラアトに冒された者を直してくれると思っていたのに」と怒ってその場を去ろうとしました (11-12)。

そのとき、ナアマンのしもべたちが言いました。「わが父よ。あの預言者が、もしも、むずかしいことをあなたに命じたとしたら、あなたはきつとそれをなされたではありませんか。ただ、彼はあなたに、『身を洗ってきよくなりなさい』と言っただけではありませんか」(13)。

**適用：**ナアマンは愚かにも、「直ります」というエリシャの約束には目を留めず、エリシャの態度とその方法に腹を立てたのです。

私たちも、エリシャのように、愚かな間違いをすることがないでしょうか。神様のことは

に耳を傾けず、こうすれば、救われるに違いないと自分で勝手に決めてしまうのです。立派な教会とか、力ある牧師とか、洗礼の方法とか、特別な祈りとか。そのような方法によって救われると思ってしまうことがあります。

### (3) ナアマン癒やされる (14)。

「そこで、ナアマンは下って行き、神の人の言ったとおりに、ヨルダン川に七たび身を浸しました。すると彼のからだは元どおりになって、幼児のからだのようになり、きよくなった」のです。

ここから教えられることは何でしょうか。それは、神様が私たちに求めておいでになるのは、素直に神様のみことばを信じてそれに従うことだということです。七たびですから、1度目も2度目も、6度目でも何も起きませんでした。言われたとおり7度目に奇跡は起きたのです。

## 結論

私たちはどうすれば救われるのでしょうか。実は、難しいことではないのです。神様のみことばを素直に受け入れ、信じることです。

神様は、救いを求める人に、今、何とされているのでしょうか。それは「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」です (使徒 16:31)。

なぜ、「主イエスを信じなさい」言われているのでしょうか。それは、主イエスが私たちの罪を負って十字架で死に、神に私たちの罪を償い、三日目に復活して、天に帰り、いま私たちの救い主となっておられるからです。私たちは、自分のこれまでのすべての罪を赦していただき、真の神様に会い、真の神様を知り、救い、助けて頂けるようになるのです。だから、「主イエスを信じなさい」と言われているのです。

大切なことは、ナアマンのように、最後は素直になって、神様のみことばを信じ、受け入れることです。そうすれば、あなたは救われます。

ですから、いま、あなたはここで救われるのです。主イエスを信じればよいのです。まだ十分に主イエスのことを知らないかもしれません。ただ、あなたが主イエスがあなたのためになされたことを信じさえすれば、あなたは救われるのです。そしたら、あなたは主イエス様のことをもっともっと良く知ることが出来るようになります。